

加賀友禪

歴史

加賀地方には、約500年前ごろすでに梅染と称される無地染があった。無地染に模様が登場するのは、17世紀の中頃で、黒染の兼房染、色絵、色絵紋(加賀紋)がはじまった。これらを総称してお国染と呼ばれ、色絵防染に一陳糊が使われるようになり、友禪染が発達する素地ができていた。

正徳2年(1712年)宮崎友禪斎が京都から金沢の紺屋・太郎田屋の元に移り住み、加賀染を飛躍的に発展させた。友禪染は模様染の創始ではなくデザインの革新であり、友禪斎は加賀染に友禪画風をなびかせ、新しい模様を生みだし、それが後に加賀友禪と称されるようになった。

一方、18世紀末、金沢で板場友禪(型友禪)が起こり、袴や羽織に繊細な小紋が染められていた。

特色

友禪染は、日本独自の染物であり、写実的な草花模様を中心とした絵画調の柄で、京友禪の図案調と対照的である。色合では淡彩の京に対し、多彩で濃い色調と三色ぼかし、アクセントに虫喰いなどの表現、友禪五彩(臙脂[えんじ]、藍、黄土、草、古代紫)などが使われ、独自の雰囲気を出している。なかでも、ボカシの技法は、京友禪の内から外へのボカシに対し、外から内にぼかすため優美な趣をもっている。

作業工程は京都ほど分業化が進んでいないため、量産には不利だが、逆に一貫性のある製作ができる。また、友禪流して仕上げるため、本染めの味があり、防染のための糸目糊の細い白線が効果的に生かされている。

板場友禪は、模様を彫った型紙によって白生地の上に繊細な絵模様を染めるもので、手描友禪とは別な魅力がある。

昭和53年7月13日石川県無形文化財に指定された。



加賀友禪

歴史與特色

加賀友禪の歴史上要上溯到距今500年前，當時加賀地區有一種獨家的素色染“梅染”。在17世紀中期，為了創出優美高雅的風格，引進了花紋圖案，此種技法發展成現在的加賀友禪的印染技術。1712年，京都的畫師宮崎友禪齋應染坊“太郎田屋”的邀請，成為染坊設計師，其精美出色的技法大大促進了加賀友禪染的發展。

加賀友禪如實地描繪了花、鳥、風景等自然風景，與京友禪的圖案風格形成鮮明對比。加賀友禪印染的技法是從外至內花紋圖案由濃漸淡，呈現出一種優美高雅的風格。

情報 資訊

主な生産地(主要産地)	金沢市(金澤市)
主な製品名(主要産品名)	訪問着、留袖、和装小物等 (訪問着(外出訪問着用和服)、留袖(已婚婦女穿的和服)、和服小配饰)
主な生産者(主要生産者)	協同組合加賀染振興協会(協同組合加賀友禪振興協會) 〒920-0932 金沢市小將町8-8(金澤市小將町8-8) TEL (076)224-5511 FAX (076)224-5533 MAIL info@kagayuzen.or.jp http://www.kagayuzen.or.jp